

平成23年度加盟団体連絡会議 兼ドーピング防止研修会

本機構活動の紹介

テストインググループ シニアマネージャー 平井千貴

血液検体採取 準備状況について

現状報告

現在、文部科学省及び法律家と共に、来年度の血液検体採取プログラムの開始を目標に法制度および対応策を検討しております。

適切な検査室の 設置について



ドーピング検査室設置について

- 目的：競技者のプライバシーを守るため
- 検査室設置は、多くの要件を満たす必要がある
 - ⇒特に国際大会では、よりハイレベルなものが求められる（リスク軽減目的）
 - ⇒競技会のレベル決めの指標となることもある（選手からの評価などに基づき）
- 検査室の要件を満たすことができない場合には、検査の中止も視野に入れ対応を検討する必要があります

ドーピング検査の実施を
予定している大会では、
ドーピング検査室の設置を
視野に入れた会場選び、
執務室配置決め等に
ご協力をお願いします

ドーピング検査 関連組織について

説明の背景

- WADAがIFやJADAのWADA Codeの準拠状況を細かく確認している
 - 陽性事例による仲裁等が増えている
- そのため、
- ⇒IFのドーピング検査に対する意識が高くなってきている
 - ⇒JADAや組織委員会に求めるレベルも年々高まっている

ドーピング検査関連組織

検査
主催機関

ドーピング検査を
実施する権限を
持つ組織

検体
採取機関

検査主催機関の
依頼により検体
採取を行う機関

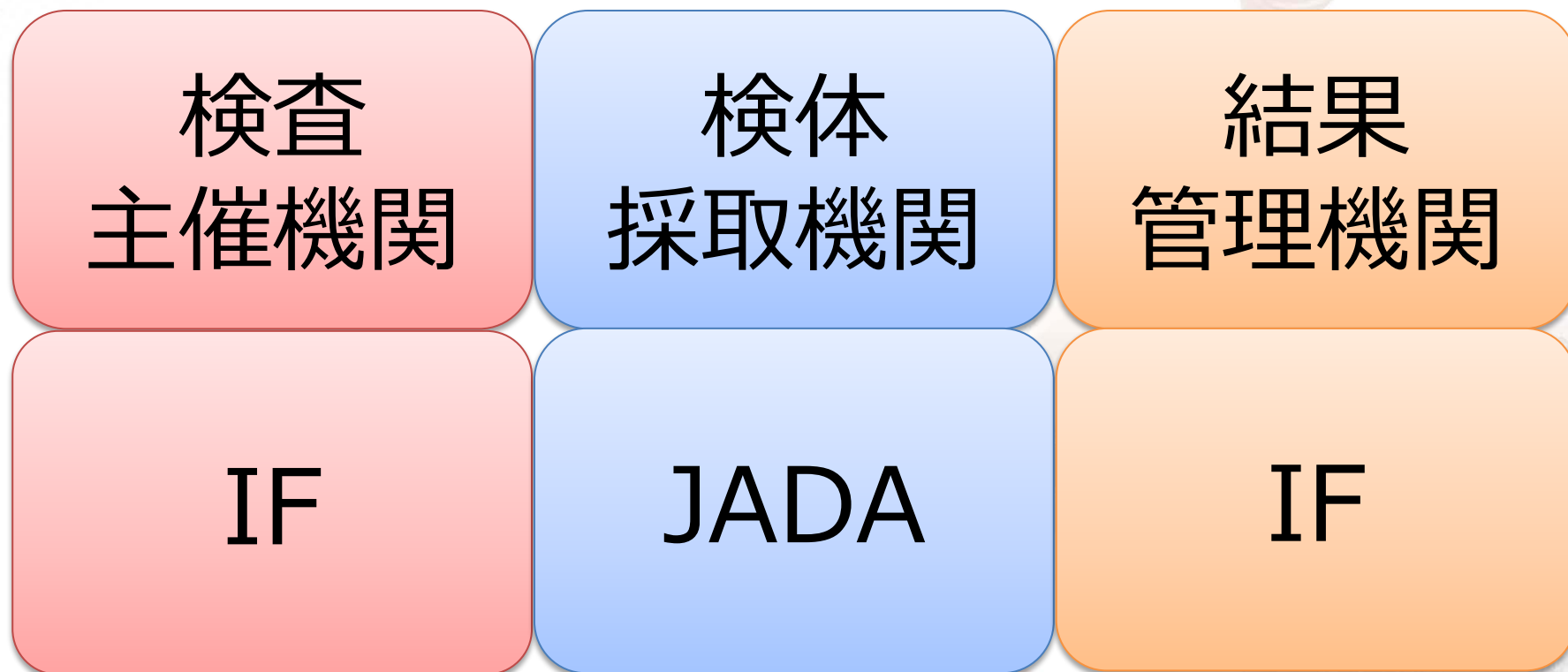
結果
管理機関

ドーピング検査の
結果を管理する
機関

1つのドーピング検査において、それぞれの機関は1組織のみ

ドーピング検査における 役割分担 《国際大会》

日本における国際大会時の役割



ドーピング検査の実施、運営、管理等は**IF**が行う
JADAは**IFの指示の下**、組織委員会と協力し
準備及び検体採取を行う

《事例》IFからの利益相反に対する指摘

国際大会において、組織委員会の医事の責任者もしくは医事委員とDCOを兼任していた

- 検査当日にOCの医事責任者がDCOとして入っていることにIF担当者が気付き、利益相反のため当該人物はDCOメンバーから除外するよう指示を受けた
- ドーピング検査中に医事の業務等で抜けられてはドーピング検査に支障が出るため業務の兼任は不適切である
- 医事委員は組織委員会所属、DCOはJADA所属となり、1名が1つの大会で2つの組織に同時に属し、業務を遂行する事は、利益相反と判断される

《事例》利益相反について

国際大会に、NF Repを派遣することをNFから要望された事例

- 日本開催とはいえ、NFは他の参加国同様に1参加国の扱いとなるため、NF Repは、利益相反となる
- 国際大会のドーピング検査関係者は以下の関係者のみ
 - ◆ IFのアンチ・ドーピング担当者/責任者⇒IF Rep/IF Delegate
IFが任命する
 - ◆ JADA職員/JADA DCO（JADAが任命する）
 - ◆ 組織委員会ドーピング検査担当者（通常1～2名:検査規模により）

国際大会における担当業務内容

- 組織委員会/NFドーピング検査担当者（通常1～2名）：
JADA職員と協力し、他部署との連携協力手配等ドーピング検査がスムーズに行えるよう準備期間から検査が終了するまでの業務を担当（原則検査室には入室できないが、状況によりLead DCOが受付業務を依頼する場合もある）
 - 検査室の準備
 - ADカードの手配（制限エリア調整含む）
 - シャペロンの手配
 - 検査終了後の競技者の移動手配
- IF Rep： IFが任命し、派遣してくるIFのドーピング検査責任者。
IFの方針に従い、ドーピング検査における**最高責任者**。

国際大会における担当業務内容

- JADA 職員： 組織委員会のドーピング検査担当者と協力し、ドーピング検査に必要な準備を行う。
DCOが判断できない内容で、IFから事前に指示を受けた内容等ある程度の内容については判断を行う。
- JADA DCO： ドーピング検査当日に、競技者への通告からドーピング検査の終了までの業務を担当。
- NF Rep： 国際大会において、NF Repを配置する事は**利益相反**に該当するため不可能

ドーピング検査における 役割分担 《国内大会》

日本国内大会における役割

検査
主催機関

JADA

検体
採取機関

JADA

結果
管理機関

JADA

ドーピング検査の実施、運営、管理等はJADAが行う
NF/組織委員会と協力し、準備を行う

《事例》聴聞会における利益相反

- 検査当日は、DCOとして活動し、聴聞会ではNFのアンチ・ドーピング委員という立場で選手側に座ることは、明らかな利益相反となる。
 - ドーピング検査は、JADAにより中立的な立場で行われるべきであり、NF所属の委員が当該団体の検査でDCOとして活動することは利益相反となる。
 - 競技者や競技者支援要員からみても、NF関係者が検査を行うように見え、検査の中立性が維持されていない事が明らかである。
- ⇒JADAがこのまま利益相反者の検査対応を認め続けることはWADA Codeから逸脱した行為とみなされ、日本のドーピング検査が成立しなくなる。

《事例》競技者からの声

- 競技者から直接、あるNF推薦DCOを名指しで、このDCOはNF関係者や競技者をよく知っており、検査のことを話しているので、DCOに入れて欲しくない。と指摘を受けた。
- 競技者から、「あのDCO（NF推薦DCO）はよく知っているので、自分の採尿には対応してほしくない。」と希望を受けた。
⇒同様の希望を複数の競技において受けている。
- 女性競技者から、できる限り女性DCOでのみの対応を希望されている。
⇒NF推薦DCOは性別等に関係なく推薦されているのが現状。
- 既に複数のNFからはNF推薦を一切いただいていないが、NF事務局担当者の方の協力を得て、検査は成立している。

国内大会における担当業務内容

- 組織委員会/NF事務局ドーピング検査担当者
(通常 1 ~ 2 名) :

JADA職員と協力し、ドーピング検査がスムーズに行えるよう準備期間から検査が終了するまでの業務を担当 (原則検査室には入室できないが、状況によりLead DCOが受付業務を依頼する場合もある)

- 検査室の準備
- ADカードの手配
- シャペロンの手配
- 他部署との連携協力手配等

国内大会における担当業務内容

- JADA 職員： 組織委員会/NFのドーピング検査担当者と協力し、ドーピング検査に必要な準備を行う。状況に応じドーピング検査における最終判断を行う。
- JADA DCO： ドーピング検査当日に、必要に応じた競技者の選出からドーピング検査の終了までの業務を担当。
- JADA 内部監査員：
ISO認定維持の為、ドーピング検査運営の品質確認を行うことを目的とし、JADAから派遣される。

国内大会における担当業務内容

- NF Rep : NFが任命し、派遣するNFの代表者。
ドーピング検査当日、ドーピング検査員と他部署（記録、競技運営、表彰、メディア等の担当者）との間を調整し、通告等がスムーズに行えるようDCOをサポートする。

また、ドーピング検査室内では、ドーピング検査において競技者の権利が守られているか等を確認する。
- ※NF Repは、**検査に関する判断権限を持たない。**
NF事務局ドーピング検査担当者が兼任することも可。

NF Repの派遣を
ご検討ください。

JADA設立から10年経過

世界に対し日本のスポーツ界は
クリーンであることを堂々と
宣言できる環境の確保に
ご理解とご協力をお願いします。

また、中立的な検査が競技者の有
益につながることをご理解ください。